

ベトナムの首都、ハノイの旧市街地区は、「36 通り」と総称されるように、業種別に商店が固まった通りが多くあり、20 世紀前半の建築物も比較的多く残されている。中越紛争よりも以前の時代には、華人（ホア族）の商店も、ここに多く並んでいた。

2010 年 3 月 26 日から 31 日にかけてベトナムに赴き、とくに、このハノイ旧市街地区において、看板や墓石などの工芸品と、漢字などの中国からの影響に焦点をあてて実地調査を行った。

以下では、広東人の会館がかつてあり、輸入食品を扱う店舗が並ぶハンプオム通りをはじめ、訪れた通りをいくつか取り上げて報告する。

## 1. ハンプオム通り

### ①白馬廟

歴史文化遺産にも指定されている廟で、かつてはこの地の華人にとっての中心的な廟であり、中国の年号が入った扁額を今も見ることができる。

現在はキン族が祭祀を行っており、偶然、訪問した日には祭礼が行われていた。

本殿の奥には、ハノイの郷土史家の本によると、かつてはベトナムに侵攻した中国の將軍「馬援」を祀っていたとあるが、祭祀の関係者は、それを否定した。

現在祀られているのは「龍肚大王」で、その神像は非公開である。この神格については以下の伝説を聞いた。9 世紀に中国人がハノイの地理風水のいい場所を埋めてしまった。11 世紀にベトナムが独立してハノイに城を建てようとしたが、建設中に倒壊することが 3 度あった。その時、現在の白馬廟の場所に小さな廟があり、皇帝がここに来て祈ったところ、神様が馬に変身してハノイ一周をした。その後、城が順調に建てられた。そのため皇帝がこの神を冊封した。

敷地内に女神を祀っているところが 2 箇所ある。手前の祭壇のほうが古く、観音と思われる 1 体の女神は、もともと華人が祀っていたものという説明を受けた。いっぽう、奥の祭壇の女神は新しく、キン族が好む「三位聖母」（地・天・水を司る）の像が 3 体並んでいる。華人からキン族への祭祀主体の変化を反映しているものと考えられる。

### ②関帝廟

修復されて公開されたばかりであり、ちょうどハノイ旧市街の町並み保存のプロジェクトに関わって日本の建築学者が参加した国際シンポジウムが行われていた。

光緒 26 年（中国の年号、1900 年）の扁額のほか、漢字の碑文が刻まれた石碑が多く存在する。現在祀られている関帝像は、修復に際して用意された新しいもののように見えた。

嘉隆 14 年（ベトナムの年号、1815 年）の碑文は、向かって右がベトナム人（越人）の名前、左が中国人（清人）の名前というように分けている。中国人の碑文には「廣東」「福建」と並んで「船戸」というカテゴリーがあった。

### ③粵東会館

かつての広東人の会館で、建築物の規模は関帝廟よりも大きいですが、現在幼稚園になっており、内部に入ることはできなかつた。

### 2. ランオン通り

漢方薬局が並ぶ通り。かつての福建会館があるが、現在学校になっており、内部に入ることはできなかつた。

### 3. ハンマー通り

紙製品を扱う店舗が並ぶ。結婚式に関する紙製品の店が多く、冥具の店は少ない。紙銭は、米ドル紙幣を模したものとベトナム・ドン紙幣を模したものが売られていた。

### 4ハンバック通り

墓石を扱う店舗が並ぶ。個人名の墓碑も、「ホ」と言われる一族名の墓碑も、ベトナム語が使われている。漢字が彫られたものとしては、「泰山石敢當」がある。

### 5ハンクアット通り

位牌や神棚など、多様な木彫品が売られている。この通りで、祭祀用品の写真を撮る観光客も多い。観光客向けに、呪符の版木を製造販売する店では、土産用のハンコの注文も受けている。